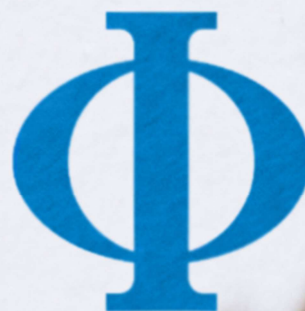


2022年度（2023年3月期）
第2四半期決算説明会 連結

株式会社フコク(東証プライム:5185)
2022年11月17日

ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ
今までに無い価値を提案していきます



Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

おはようございます。

本日はお忙しい中、株式会社フコク2022年度上期決算説明会をご視聴いただき、誠にありがとうございます。

本日の説明をさせていただきます株式会社フコク副社長の大城でございます。

最初にフコク製品をご愛顧いただいている全てのお客様、株主の皆様、私達の企業活動を支えていただいている全ての関係者の皆様方に深く御礼申し上げます。

それでは、始めさせていただきます。

INDEX	Φ FUKOKU 2/21
1. 決算のポイント	
2. 2023年3月期第2四半期実績	
3. 2023年3月期通期業績予想	
4. セグメント別・地域別の状況	
5. 株主還元	
6. プライム市場上場維持に向けて	

2023年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2022年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

御覧の通り、
決算のポイントを簡単にご説明した後、2022年上期実績、通期業績予想、セグメント・地域別状況、株主還元方針、プライム市場上場維持について説明させていただきます。

1. 決算のポイント

初めに決算のポイントです。

Φ FUKOKU 4/21

1. 決算のポイント

2023年3月期第2四半期実績

売上高 円安の影響により円換算時の収益増によって **増収**

営業利益 新製品を投入したが当初見込んだ自動車メーカー各社の生産回復はせず操業度低下さらに原材料費や輸送費、及び燃料費が大きく上昇その影響を各種努力で賄いきれず **減益**

2023年3月期通期予想

半導体不足長期化に伴う自動車メーカー各社の生産調整や原材料価格と輸送費の上昇傾向はしばらく続くと想定。生産工程の合理化や原材料価格の変動対応等の採算改善努力を継続する

売上高 770億円 **営業利益** 37億円 の公表値を据え置く

配当

中間配当 当初計画の25円から **27円へ増配**

期末配当 期末配当は当初計画25円を据え置きし、**通期で52円を計画**

2023年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2022年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2022年度上期の売上高は、円安の影響により円換算時の収益増によって増収しました。

営業利益は計画通り新製品を投入しましたが、当初見込んだ自動車メーカー各社の生産が回復せず操業度は低下しました。さらに、原材料費や輸送費、及び燃料費上昇の影響を体質改善努力で賄いきれず減益となりました。

これを受けまして当期の通期予想となりますが、半導体不足長期化に伴う自動車メーカー各社の生産調整や原材料価格と輸送費の上昇傾向は、しばらく続くと想定しています。

しかしながら、生産工程の合理化や原材料価格の変動対応等の採算改善努力を継続し、売上高770億円、営業利益37億円の公表値は据え置きとします。

上期の中間配当に関しましては30%配当の約束通り、25円から27円に増配としました。期末配当予想は、外部環境が不透明な状況ではありますが当初計画25円を据え置きとし、通期では52円を計画しております。

2. 2023年3月期第2四半期実績

次に2022年度上期の実績を報告します。

2. 2023年3月期第2四半期実績

業績概要（連結）

（単位：百万円）

	2022年 3月期	2023年 3月期	前年増減額	前年増減率
	第2四半期 実績	第2四半期 実績		
売上高	36,650	38,971	+2,321	6.3%
営業利益 (売上高対営業利益率)	1,820 (5.0%)	817 (2.1%)	-1,003 (-2.9pp)	-55.1%
経常利益 (売上高対経常利益率)	2,125 (5.8%)	1,811 (4.6%)	-314 (-1.2pp)	-14.8%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	1,611 (4.4%)	1,470 (3.8%)	-140 (-0.6pp)	-8.7%

※pp=パーセンテージポイント

2023年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2022年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

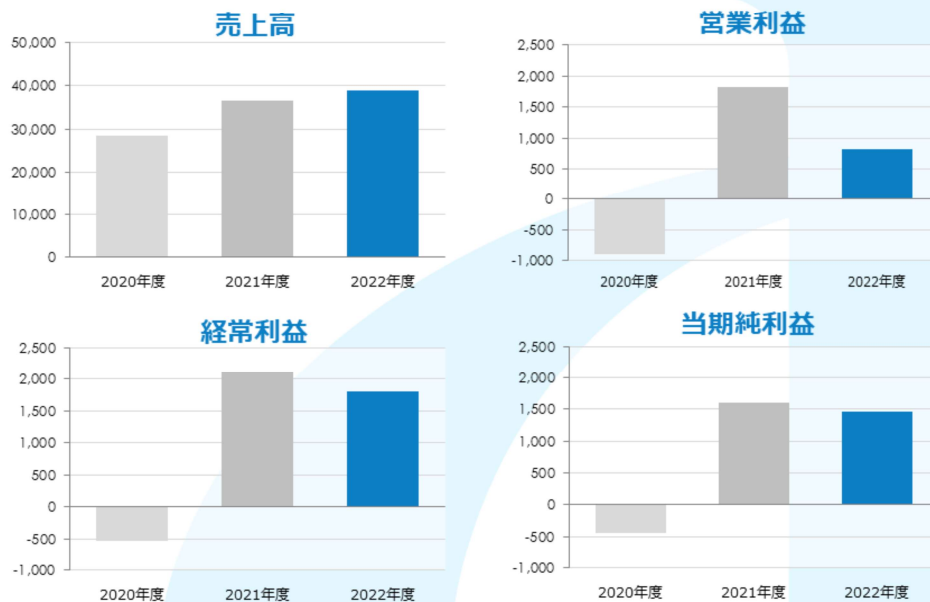
2022年上期の実績は、ご覧の通り、売上高は前年同期比6.3%増の389億7千1百万円となりました。

しかし、営業利益、経常利益、当期純利益は前年同期を下回る結果となりました。

2. 2023年3月期第2四半期実績

経営実績推移 (連結・半期)

(単位：百万円)

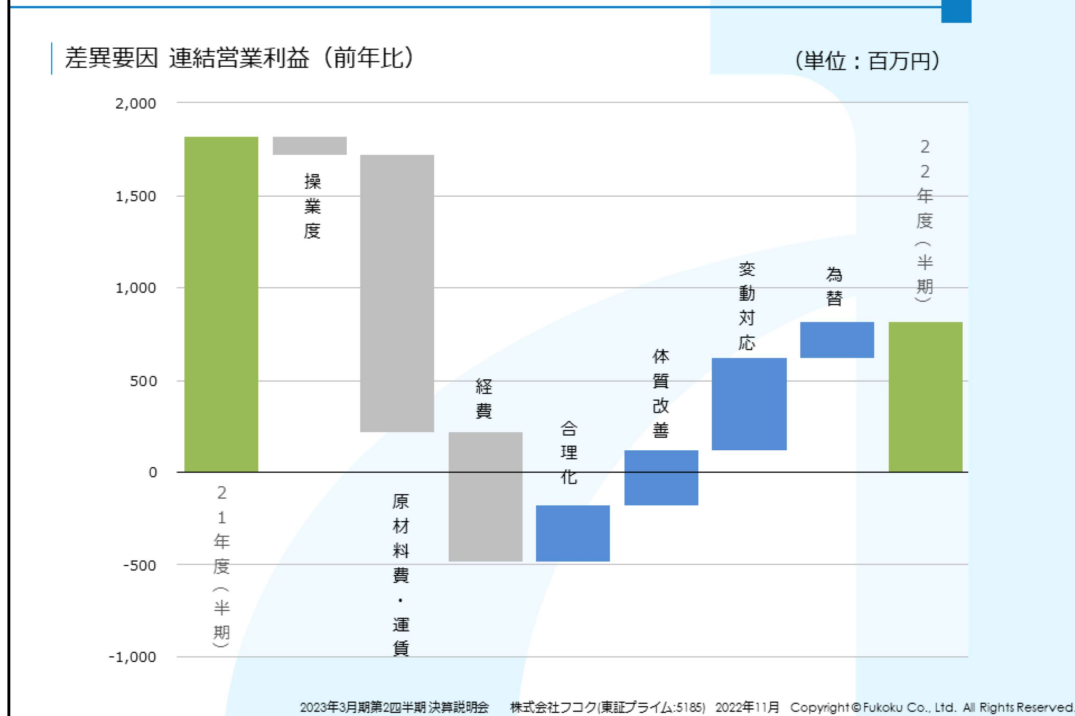


2023年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2022年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、過去3年間の上期の実績を示したものです。

冒頭で説明した通り売上は微増で、営業利益、経常利益、当期純利益とも前年同期より下がっています。

2. 2023年3月期第2四半期実績



このグラフは対前年比 連結営業利益増減を要因別に示したものです。

マイナス要因としては操業度による減益、原材料・運賃、経費、等々で特に原材料・運賃が16億円と大きく影響、プラス要因として合理化、体質改善、変動対応、為替等で13億円を挽回していますが、マイナス要因を全てカバーできていません。

2. 2023年3月期第2四半期実績

財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

（単位：百万円）

	2022年3月末		増減額	2021年9月期		
	実績	実績		実績	実績	
現金及び預金	9,301	10,429	1,128	税前利益	2,134	2,358
受取債権	17,394	19,237	1,843	減価償却費	2,066	2,131
棚卸資産	9,605	11,030	1,425	売上債権の増(△)減(+)	1,767	△ 629
その他流動資産	1,443	2,258	815	棚卸資産の増(△)減(+)	△ 1,027	△ 599
流動資産計	37,744	42,957	5,212	仕入債務の増(+)(△)	△ 58	233
有形固定資産	24,753	26,581	1,827	その他	△ 919	△ 2,482
その他固定資産	2,541	2,816	275	営業活動によるCF	3,962	1,011
固定資産計	27,294	29,398	2,103	有形固定資産の取得	△ 1,301	△ 1,976
資産計	65,039	72,355	7,315	その他	△ 31	32
借入金	10,930	13,360	2,430	投資活動によるCF	△ 1,332	△ 1,943
支払債務	9,926	11,076	1,149	借入れによる収入	49	2,915
その他流動固定負債	9,805	9,309	△ 495	借入金の返済による支出	△ 1,784	△ 1,144
負債計	30,662	33,746	3,084	その他	△ 464	△ 375
株主資本計	31,106	32,267	1,161	財務活動によるCF	△ 2,200	1,395
非支配持分	2,152	2,399	246	フリー・キャッシュ・フロー	2,629	△ 932
その他	1,117	3,940	2,822			
純資産計	34,377	38,608	4,231			
負債・純資産計	65,039	72,355	7,315			

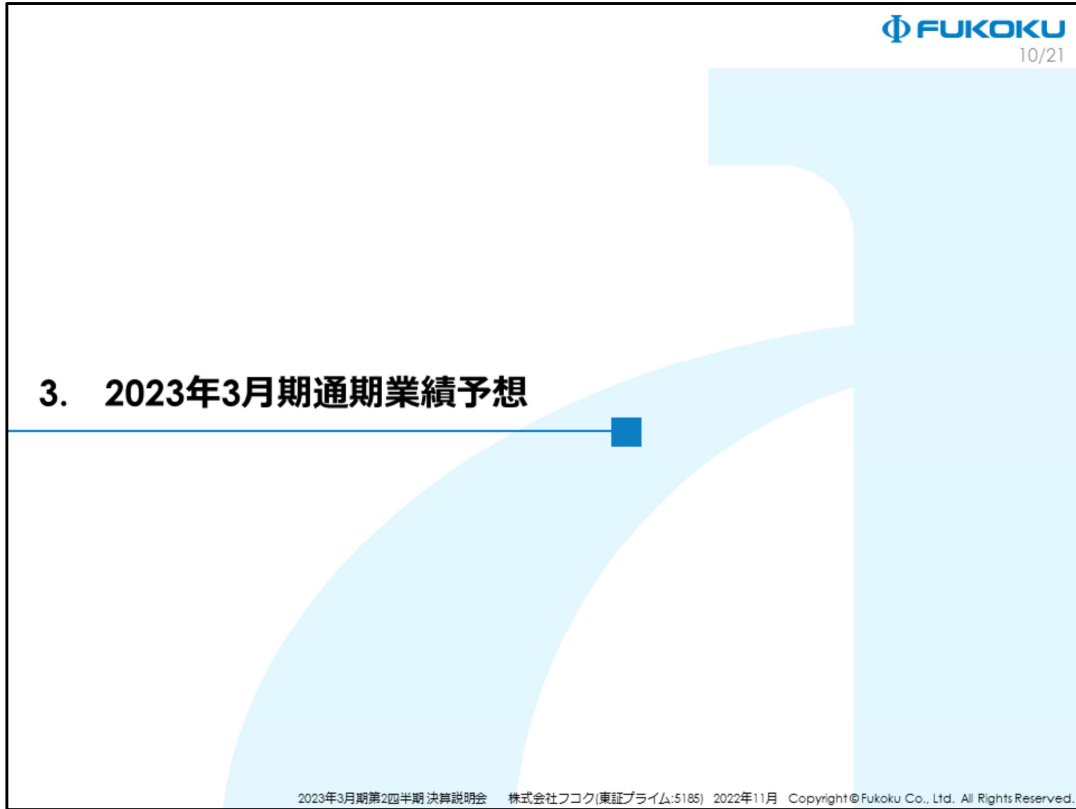
- 海外子会社決算の為替換算の影響によりBS全体が増加
- 退職給付制度変更に伴う
 拠出金支払や運転資金等の調達により借入金が増加
- 売上債権の増加及び退職給付制度変更に伴う
 支払によりフリー・キャッシュ・フローは減少
- 固定資産取得や運転資金調達により借入金が増加するが
 合理化等の実施でFCF改善に取り組む

2023年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2022年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

財務体質の状況を、BSとキャッシュフローで見ると、ご覧の通りとなります。

海外子会社決算の為替換算の影響によりBS全体が増加しておりますが、退職給付制度変更に伴う拠出金支払や運転資金等の調達により借入金が増加しております。

キャッシュフローでは、売上債権の増加及び、退職給付金制度変更に伴う支払により、フリー・キャッシュ・フローは減少しています。



続いて2022年度通期の業績予想についてご説明いたします。

3. 2023年3月期通期業績予想

業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2022年 3月期	2023年 3月期	前年増減額	前年増減率
	実績	予想		
売上高	71,504	77,000	+5,496	+7.7%
営業利益 (売上高対営業利益率)	1,749 (2.4%)	3,700 (4.8%)	+1,951 (+2.4pp)	+111.5%
経常利益 (売上高対経常利益率)	2,522 (3.5%)	3,800 (4.9%)	+1,278 (+1.4pp)	+50.6%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,084 (2.9%)	2,700 (3.5%)	+616 (+0.6pp)	+29.5%

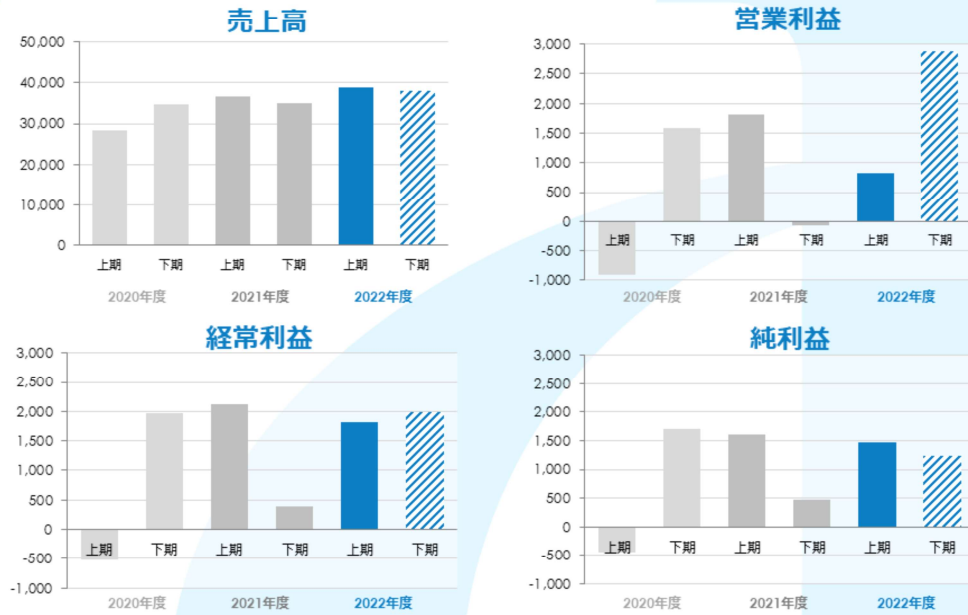
※pp=パーセンテージポイント

冒頭に申し上げましたが、半導体不足長期化に伴う自動車メーカー各社の生産調整や原材料価格と輸送費の上昇傾向は予想されていますが、通期予想は既に公表している数値である売上高770億円、営業利益37億円、経常利益38億円、当期純利益27億円を据え置きとさせていただきます。

3. 2023年3月期通期業績予想

経営予想推移 (連結)

(単位: 百万円)



2023年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2022年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

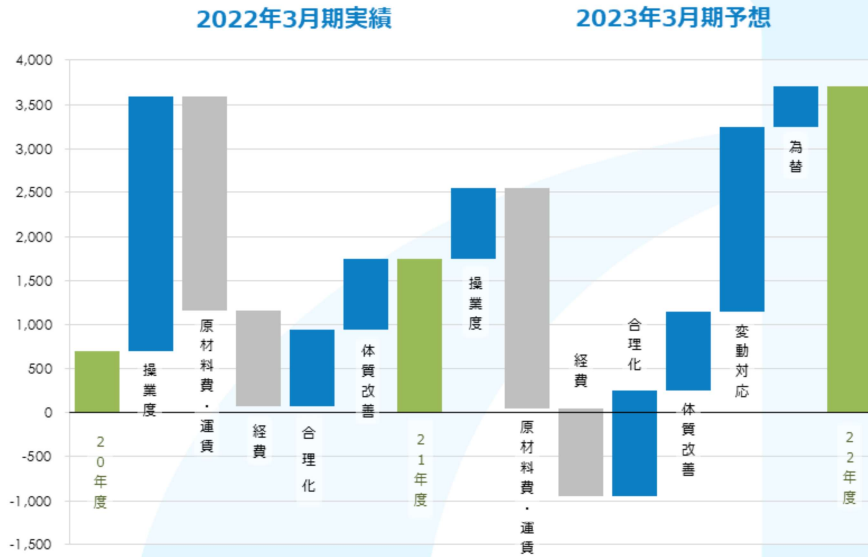
これは、過去3年間の業績を半期毎の推移で表したものです。

ご覧いただいた通り、今年度下期は売上微減ですが、上期より実施している原材料費の変動対応や体質改善、合理化の効果によって本来の収益力を回復すること、及びインド、インドネシアが好調で計画を上回る収益を上げていることより、下期は営業利益、経常利益の増加を見込んでいます。

3. 2023年3月期通期業績予想

差異要因 連結営業利益（前年比）

（単位：百万円）



2023年3月期第2四半期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2022年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

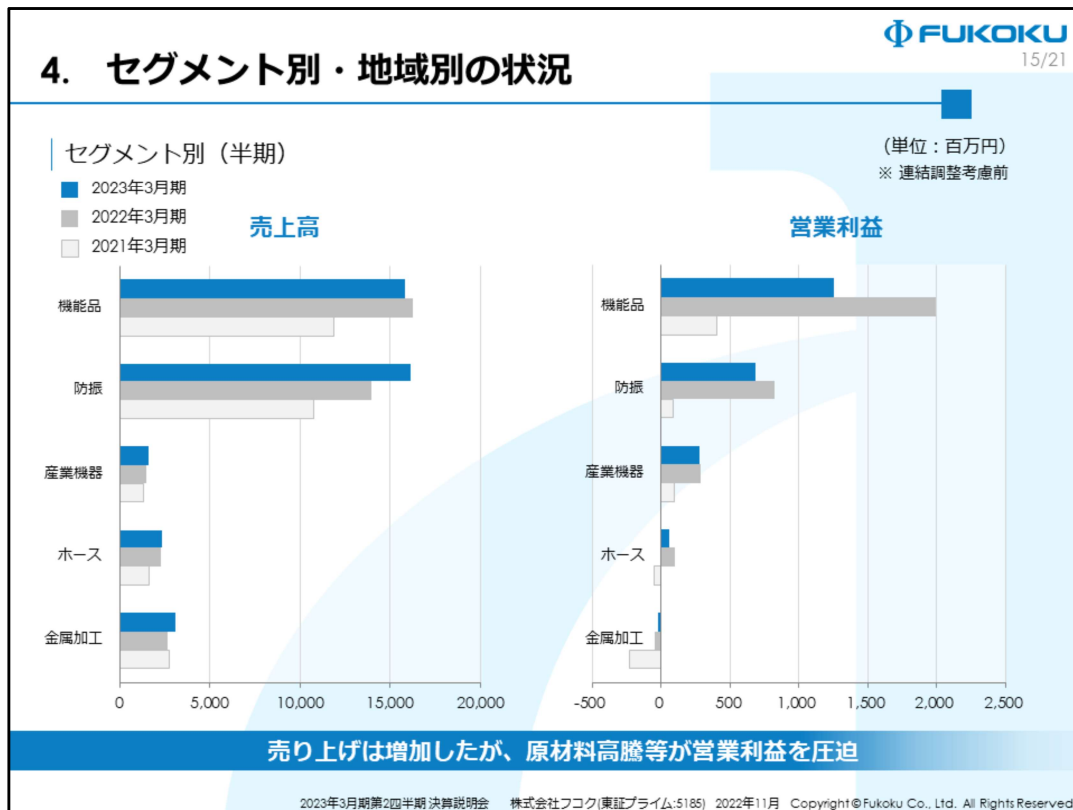
このグラフは、対前年比通期連結営業利益の増減を21年度から要因別に示したものです。

左側半分は2021年度の実績、右半分が今年度の予想となります。

上期から引き続き原材料費・運賃、経費等のマイナス要因が大きくなっていますが、合理化、体質改善、変動費対応をスピード感持って全社一丸となって取組むことで、収益を改善します。

4. セグメント別・地域別の状況

次は、
セグメント別・地域別の状況について、ご説明いたします。

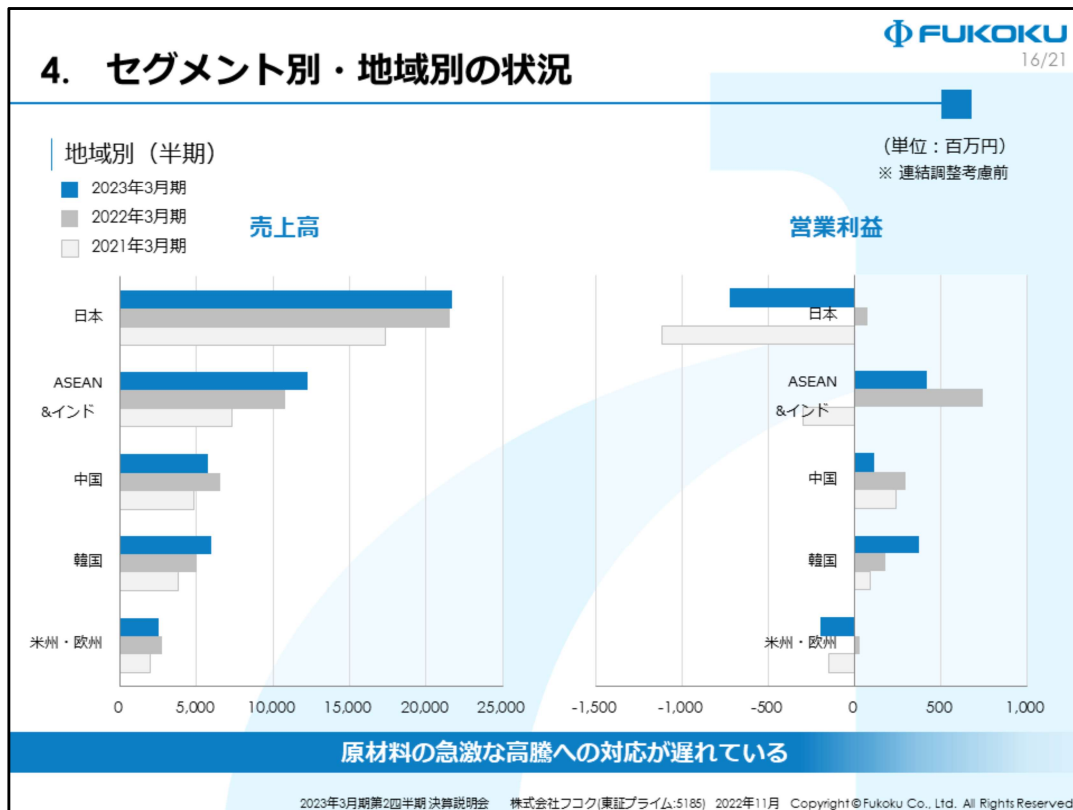


まず、セグメント別の状況です。グラフは、20年度から22年度までの推移がわかるように表しています。

上から順に、機能品・防振・産業機器・ホース・金属加工と、5つのセグメントで構成されています。

ご覧の通り2022年度上期は全てのセグメントで営業利益が前年度を下回っています。

金属加工については、わずかに赤字でしたが、下期は確実に黒字化させることで、何としても全事業の黒字化を目指します。



次は、地域別の状況です。セグメント状況と同様に年度ごとの推移で示しています。

ご覧の通り、2022年度上期の営業利益は、日本と米州・欧州は赤字となっています。

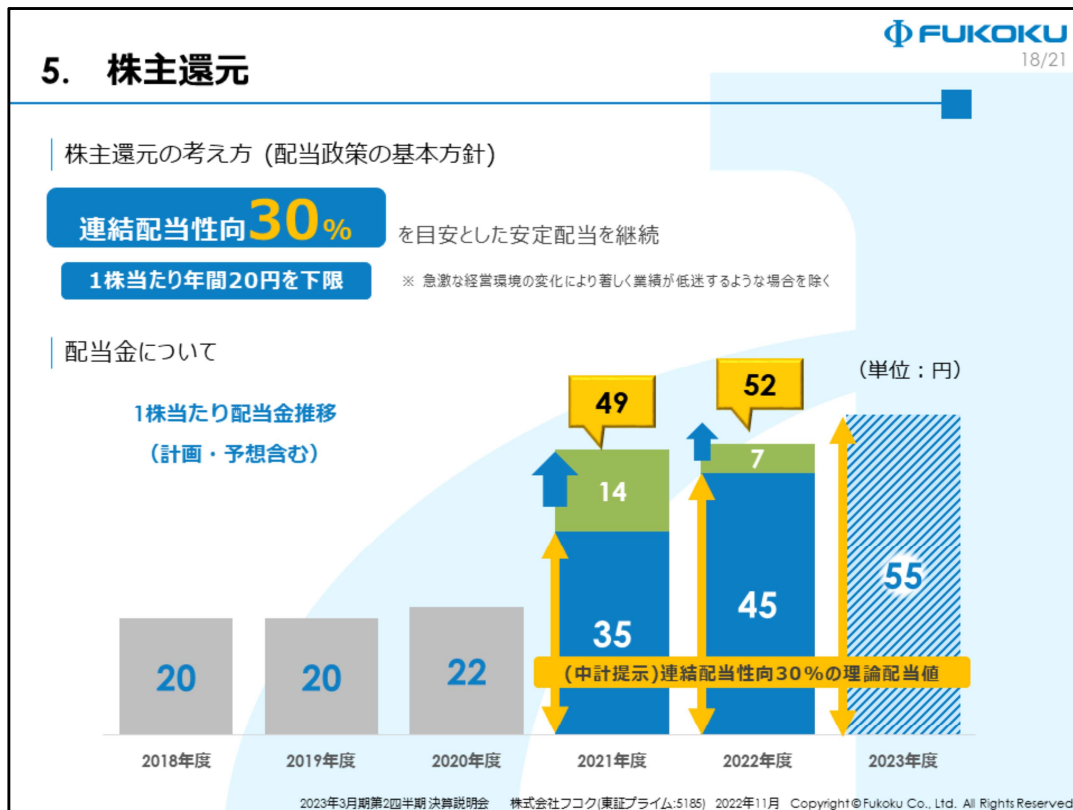
日本に関しては原材料費の対応遅れが影響していますが、下期はリカバリー可能と考えております。また、遅れている体質改善については中期計画の見直しを計画しています。

米国は操業度ダウンの影響が大きく、欧州についてはチェコ拠点の撤退が完了しました。

アセアン・インドについては、下期順調に推移していますので、V字回復すると考えています。

5. 株主還元

次に、株主還元について、ご説明いたします。



配当政策につきましては、既に中期計画にて発表しておりますが、連結配当性向30%を目安に、安定配当を継続することを基本方針と考えております。

これに基づき、2022年度第2四半期の中間配当は当初計画25円から2円増配の27円と致しました。

2022年度下期の期末配当は現在の半導体不足、原材料・運賃高騰等の懸念もありますが、計画通りの25円、通期で52円配当を計画しております。

6. プライム市場上場維持に向けて

最後にプライム市場上場の維持について説明させていただきます。

6. プライム市場上場維持に向けて

上場維持基準の適合状況

流通株式時価総額 **109.4億円**
(2022/9/30現在)

項目 (上場維持基準)	流通株式数 (20,000単位以上)	流通株式時価総額 (100億円以上)	流通株式比率 (35%以上)	1日平均売買代金 (20百万円以上)
基準日				
2021/6/30 (移行基準日)	105,134単位	92.9億円 (※2) 883.7円	59.7%	21.8百万円
2021/9/30 (計画書記載)	108,001単位 (※1)	109.7億円 (※2) 1,015.8円	61.3% (※1)	21.8百万円
2022/3/31 (当年度末)	111,286単位 (※1)	108.4億円 (※2) 974.0円	63.2% (※1)	47.6百万円 (※3)
2022/9/30 (当上期末)	110,833単位 (※1)	109.4億円 (※2) 986.7円	62.9% (※1)	36.3百万円 (※3)

(※1) 各基準日段階における当社株式名簿より推計
(※2) 各基準日前3ヵ月間の日々の最終株価の平均値
(※3) 1年間の日々の売買代金の平均値

今後も企業価値向上に努め 流通株式時価総額の継続的100億円超を目指す

2023年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2022年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

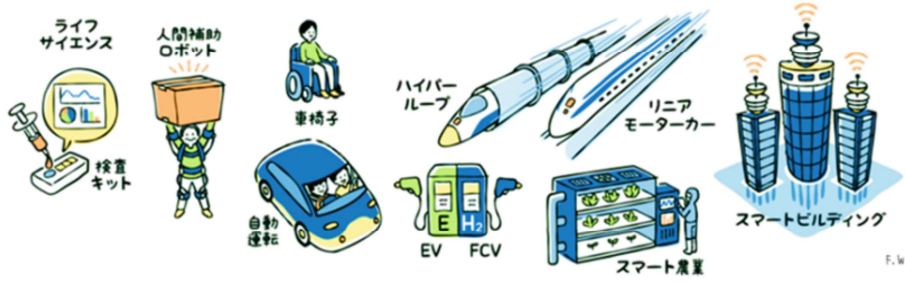
弊社がプライム市場を維持するための重要条件として流通株式時価総額100億円以上の項目があり、昨年9月より基準をクリアしております。

今後、流通株式時価総額を安定して満たすには、株価のアップが必要と理解しております。

それには利益と配当を確実に出して、非財務情報のアピールをIR情報として積極的に発信して株価向上を目指します。



フコクは“ソフトマテリアル”で“あったらいいな”を実現していきます！





ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ
今までに無い価値を提案していきます

注意事項

- ◆ 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- ◆ 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものと変更する義務を負うものではありません。

以上で、本日のご説明を終了させていただきます。

ありがとうございました。

Appendix

1. その他指標

研究開発費、設備投資、減価償却費

(単位：億円)

